

生活単元学習指導案

学 級 　むつみ学級（知的）

（中1男子 1名、女子 1名、中2 男子1名、中3男子 2名）
授業者 T 1 菊池一美 T 2 吉田麻利子（支援員）

1 単元名 「身近な人に感謝の気持ちを伝えよう」

2 単元に設定の理由

(1) 生徒について

むつみ学級の中1生徒は、毎日元気に登校し、中学校生活を楽しんでいる。全体的にコミュニケーションや対人関係で難はあるものの、自分から挨拶をしたり、慣れた仲間であれば自ら話しかけることができる。中3の生徒は最高学年として発言や行動でリードしてくれる頼もしい存在であり、交流学級も一緒のため協力し合っている。

生活単元学習はむつみ学級5人で行うので、ひとりひとりの課題も意識させつつ、つながりも深められる時間となっている。

(2) 単元について

中2中3の生徒はこれまでも授業の中で日頃お世話になっている人へ手紙や、年賀状を出すことをしてきている。父の日や母の日、敬老の日などに生活に役立つ物をプレゼントしてきた。その経験を生かし、日頃お世話になっている身近な人（小学校の時の担任の先生や支援員さん）に、自らプレゼントを考え、感謝の言葉を考え、さらにプレゼントしたい物をそれぞれ工夫して作ることで、達成感や自己肯定感につなげたいと考え本単元を設定した。

3 単元の指導目標

(1) 完成した物を身近なお世話になっている人に届けることや、プレゼントすることによって感謝の気持ちを伝え、達成感・成就感を味わう。【関心・意欲・態度】

(2) 様々な作業で色・形・素材などを工夫し、丁寧に作ることができる。【思考・判断・表現】【技能】

4 単元指導計画（本時4/7）

	○主な学習内容	・支援のポイント
1	○身近な人にどうやって気持ちを伝えるか考える。 ○誰に送るか考える。 ○どんな風に作ったら喜んでもらえるか考える。 ○贈る相手に伝える文章を考える。	・これまでの経験を振り返る場を作り、どうやって気持ちを伝えるか考えることができるようにする。 ・どんな風に作ったら喜んで貰えるか考えを持つようにする。 ・思い出をひとつは入れ、心をこめた文章を作ることができるようにする。
2	○どんな材料を使って、どんな物にするか、見本を元に考える。 ○手順書・使うものを考える。	・インターネットで仕入れていた見本をもとに、自分たちでできそうなことを考え、工夫できることや素材、材料を決めることができるようにする。
3	○実際につくってみる。 ○伝える文章の清書をする。	・いったん決めたが、改めた方がより一層よくできることはないか考えることができる。 ・丁寧に心をこめて作業をすることができるようにする。
4 (本時)	○実際に丁寧に工夫してつくってみる。	・丁寧に作業をすることができるようにする。 ・各自工夫を入れてやってみることができるようにする。 ・個人の課題も意識しながら、できるように一緒にやってみる。
5	○実際に丁寧に工夫してつくってみる。	・丁寧に作業をすることができるようにする。 ・各自工夫を入れてやってみることができるようにする。 ・個人の課題も意識しながら、できるように一緒にやってみる。
6	○実際に丁寧に工夫してつくってみる。 ○どんな言葉をかけながら渡すか考え、練習する。	・丁寧に作業をすることができるようにする。 ・各自工夫を入れてやってみることができるようにする。 ・個人の課題も意識しながら、できるように一緒にやってみる。 ・コミュニケーションの取り方も、丁寧に練習することができるようにする。
7	○校舎内にいる先生方には渡しに行く。（市のクリスマスの集いで渡す先生もいる）	・コミュニケーションの取り方も、丁寧にすることができるようにする。

5 本時について

(1) 主題 「みんなで協力し、身近な人に渡すプレゼントを丁寧に工夫して作ろう」

(2) 指導目標

①自分から取り組むことができる。目標を意識して取り組むことができる。【関心・意欲・態度】

②手順に沿って道具を使い、色・形・素材などを工夫して丁寧に作ることができる。【思考・判断・表現】【技能】

(3) 評価規準

観点	評価内容 (評価方法)
関心・意欲・態度	目標を意識しながら、集中して取り組むことができる。(行動観察)
思考・判断・表現・技能	手順に沿って道具を使い、色・形・素材などを工夫し、丁寧に作ることができる。(出来上がり物)

(4) 生徒の実態・個別目標・手だて

生徒	生徒の実態	個別目標	・主な手だて
1年男子 Aさん	<ul style="list-style-type: none"> 手先が器用で、カッターやはさみを上手に使うことができる。 わからないことやわからない漢字などがあれば自分から聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具を上手に使い、丁寧に工夫して作業する。 わからないことがあれば、きちんと聞く。 同学年の生徒と声をかけ作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 疲れてきたり、集中力がとぎれそうなときは声をかける。 声をかけやすいように、座席を工夫する。
1年女子 Bさん	<ul style="list-style-type: none"> 仲良く作業ができるように、声をかけることができる。 集中して作業ができる時間を伸ばしてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具を上手に使い、丁寧に工夫して作業する。 集中して作業ができる時間を伸ばす。 同学年の生徒と声をかけ作業することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 疲れてきたり、集中力がとぎれそうなときは声をかける。 タイマーを使用して集中して作業ができた時間を掲示して励みにする。 タイマーを利用して、集中して作業をさせる。
2年男子 Cさん	<ul style="list-style-type: none"> すぐ人に頼ろうとしたり、支援員さんに甘える場面がある。 声をかければはっきり言葉を発して報告ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のできない作業のところは「わかりません」「教えてください」と声をかけられる。 はっきり言葉を発して報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> T2は離れて見守る。 T2と発する言葉の練習をしてから、報告をさせる。
3年男子 Dさん	<ul style="list-style-type: none"> 作業は早いですが、雑な面もある。 他の人の邪魔をすることもする。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧さを意識して作業に取り組むことができる。 自分の作業に集中できる時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 前の時間のよかったところをほめ、改善したい所を確認してから作業に入る。 タイマーを使用して集中して作業ができた時間を掲示して励みにする。 タイマーを利用して、集中して作業をさせる。
3年男子 Eさん	<ul style="list-style-type: none"> こつこつと作業に取り組むことができる。 1回やったことであれば指示の理解は早い。 困っていることがあっても、声に出しづらい面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に工夫して作業に取り組むことができる。 わからないことは「どうすればいいですか」などと声に出す。 報告をしっかりとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人に流されることなく、作業を丁寧に出来るように、声をかける。 わからないそぶりや手が止まった時声をかけ、報告の仕方の確認をする。

(5) 座席配置

<導入まで>

<作業から>

